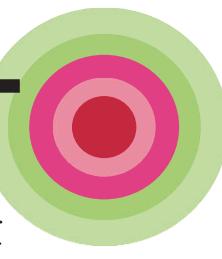


！！！今月のSpotLIGHT



嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介していくコーナーです。今月はこの方です。



第733空輸機動中隊航空貨物部

なみざと たかひろ
並里 貴弘さん



Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

私の部署は、嘉手納基地の空港ターミナルに出入りする航空貨物を取り扱い管理しています。いわば民間の空港貨物ターミナルです。在沖空軍の貨物のほか、在沖海兵隊・海軍・陸軍の部隊の貨物も取り扱い、在日米軍基地、海外や米国本土の基地に、米軍機や米軍がチャーターした民間貨物輸送機で空輸します。空輸される物は様々で、ヘリコプターから家財道具、

衣服類、生活雑貨まであります。それらが適切に梱包され、送り主やあて先が明確に記載され、機内に運搬される段取りを確認しています。私はその他の日本従業員の現場監督の立場にもありますので、彼らに対して特殊車両の運転の仕方、消火訓練、安全指導も行います。この部署に務め6年になります。

Q2. 現場のスタッフ構成は？

約70名が配属され、日本人が約30名、兵隊が約40名です。24時間勤務で3交代制となっています。日本人従業員の勤務スケジュールを組んだり、指示通り彼らの作業が行なわれているかどうかを確認することも私の責任です。兵隊の指示を日本人従業員に的確に伝えることが私の1番大切な仕事です。

03. 職場の雰囲気は？

日本人と兵隊は和気藹々としてチームワークはうまくとれています。職場を離れても、クリスマスパーティーは基地内のクラブで、日本人従業員がアメリカンスタイルの文化を楽しみ、逆に基地外での忘年会などではアメリカ人従業員が日本スタイルの文化を楽しむという異文化交流があります。

Q4. どういう点に仕事のやりがいがありますか？

従業員が多いので、皆が一つになってミッションを成し遂げていく充実感があります。素直に意見を聞いてくれるので、仕事はスムーズに進んでいます。そういう訳で、毎日頑張ろうというやる気がでてきます。また兵隊と英語で会話することや、貨物を運搬してくる地元のトラックの運転手と知り合いになることも楽しみです。



Q5. この仕事の大変さについて

トラックや飛行機で大量の貨物が輸送されてきたりする時は大変忙しくなります。特に5月から9月の期間は、多くの軍関係者が転勤する移動時期でもありますので、多くの家財道具を仕分けしたりする確認作業に追われます。また海外で自然災害が発生した際には、救難物資を被災国に梱包輸送する作業があります。例えば2004年12月のスマトラ沖地震の時には、年末・年始も全員総出で作業を行いました。その他飛行部隊の緊急の任務があれば、米軍機内に必要な医療関連機材を運搬することもあります。

Q6. この職場に就きたい方に求められている資格条件は？

フォークリフト運転資格の免許が必要とされます。高卒以上の学歴が求められ、初步的な英語運用能力を持っている方です。また肉体作業中心なので、健康な体力が大事です。ここではスポーツをしていた従業員が多い傾向にあります。

Kadena Language Institute



TAKAKO MATSUMOTO

文化から学んだこと

嘉手納町立外語塾 松本 貴子

私は嘉手納外語塾2年生の松本貴子です。7月7日から31日まで、嘉手納基地広報渉外部で職場体験を行いました。私は、職場体験を行う前に2つの目標を掲げました。一つは自分の英語力を少しでも上達させること、そしてもう一つはアメリカの文化を学ぶということです。私はこの職場体験を通して、英語はもちろんのこと、様々な文化の違いに触れることができました。

私は毎日車で通勤していたのですが、4 WAY STOPと書かれた標識のある交差点では必ず4方向すべてが一時停止をし、先に一時停止していた車から順番に進む、信号のある交差点では、赤信号の時でも車が来ていなければ安全確認をして左折ができる(嘉手納基地内のみ)、など日本と異なる基地内の交通ルールに最初ははじめず、運転するのが怖かったです。また、建物がほぼ同じ形をしているのにも関わらず、目印が建物に表示されている番号だけなので、一度迷つたら自分がどこにいるか分からず大変な思いをしました。

また、同じ事務所で、受付のアメリカの高校生2人の女の子と友達で英語でした。彼女たちの日常まるでアメリカのホームドラマやさしく、英語が思うように使えない私を見ても、嫌な顔一つせられるなど、優しく接してくれました。



Thank you, Alex and Keanna!!



(松本貴子撮影)

ルバイトをしている夏休み中のアメリカになりました。会話はもちろんすべて生活や恋愛の話などを聞いていると、のようだと思いました。2人はとてもえずコミュニケーションがうまくいかず、分かりやすい言葉に言い換えてくれるなど、優しく接してくれました。



CHANGE OF COMMAND CEREMONY

また、戦争前に基地内にあった家や墓、祭られている村の神様を参拝する家族を案内する聖地参拝というプログラムをボランティアの兵隊さんと一緒に手伝う機会もありました。現在はそのような場所が駐車場になっている所もあるのですが、まだ聖地として残っている場所もありました。案内

した家族が、沖縄の昔からのやり方で参拝をしていたのを見て、このようなやり方が残っていることに驚きました。他の国の文化を学ぶことも大切ですが、自分達の文化や歴史を大切にして、私のような知らない人たちに伝えていかなければならないと強く思いました。

今回のこのようなさまざまな体験は、私の人生の中で非常に貴重な経験になりました。約1ヶ月間快く受け入れてくれた嘉手納基地広報渉外部の皆様、そして職場体験を企画してくださった嘉手納町を始め嘉手納外語塾の皆様、本当にありがとうございました。この体験で学んだ事を将来に生かしていきたいと思います。

Kadena Language Institute



SAKIKO KAMIYA

インターンシップを終えて

嘉手納町立外語塾 神谷 沙希子

私は、嘉手納外語塾2年の神谷沙希子です。嘉手納基地渉外部で約1ヶ月のインターンシップをさせて頂きました。ここでは、イベントの運営や基地内と基地外との交流活動、基地問題への対応、翻訳、広告の発行などを行っています。

私が一番に感じたことは、基地内ではイベントやボランティア活動が多いということです。外国人ボランティアを募り、月に2回、金曜日に地元の小学生に英語を教えます。約10名前後のボランティアが集まり、子ども達はゲームを交えながら楽しく英語を学んでいました。驚いたことは、ボランティアの方は若い人が多いということです。今の若い人たちには、自分のことで精一杯で、こういった活動に参加するゆとりがないように思っていましたが、友達同士でも、一人でも積極的に参加するという、人に合わせようとする日本人とは違った考えに、魅力を感じました。

その他にも、スペシャルオリンピックスを始め、アメリカフェスト、基地内拝所参拝、スポーツ親善試合、あきなわマラソン、ハーリーなどの多くの活動があり、基地と地元を結ぶ、いい機会があることを知りました。



また、イベントの運営にあたってのミーティングに参加させて頂きましたが、日本のように形式ばってなく、個々の意見を取り入れつつ、話の展開がとてもスムーズでした。その際には、上司に何もかも確認するのではなく、自分達すべて責任を持って進めていくという、積極的で、イベントに対する意欲を感じました。

何といっても、日本人従業員の多いことには驚きました。フード関係はほとんどがそうだったと思います。ここ渉外部でも、スタッフ全員が日本人でした。彼らの朝は、翻訳から始まります。

毎日の朝刊の基地関係の記事をスクラップし、交代で翻訳を行います。私も日英、英日の両方の翻訳に挑戦しましたが、直訳では、おかしな日本語になってしまったり、英語ではない日本語の表現も多々あるので、英語力はもちろんのこと、何より日本語力が試され、とても苦労しました。

英語と日本語の両方を使って働いている渉外官の皆様に直に接することで、言葉の大切さについて考えさせられました。また、広報局のアメリカ人からは、会話をリードしてくれる面や、ボランティアに対する高い意識を知り、外国人の積極性を見習いたいと思います。嘉手納町に住んでいるからこそ関わる航空機騒音問題にも触れることができました。すべてがこれから社会に出て行く上で役立つ事柄です。このような機会を設けてくれた関係者の皆様、そして何より約1ヶ月という短い間でしたが、お世話になった嘉手納基地渉外部の皆様に感謝を申し上げます。



Kadena Language Institute



Y U S U K E N A G A Y O S H I

インターンシップの様子

嘉手納町立外語塾 永吉 祐介

第18航空団は嘉手納町立外語塾（KLI）の生徒を対象としたインターンシッププログラムを開催し、外語塾生（KLI）11名が7月7日から31日まで、基地内での職場体験を行いました。このプログラムは毎年嘉手納基地広報課外部の協力の下実施されており、

今年で11年目になります。今月号では、参加した2年生11名の中から、3名の仕事内容や感想を紹介します。

INFORMATION TICKETS & TRAVEL

嘉手納外語塾の宇根良美さんはITTというツアーを取り扱う事務所でインターンシップをしました。良美さんの仕事はお客様の案内や、ツアーに必要な予約や料金の設定などの情報を集めるため、ビーチやレンタカー会社などの施設に電話を掛けることでした。良美さんは「ツアー情報を覚えたり、お客様に英語で接客をしたり、お客様が希望するツアーデスク担当者へつない



だりできて嬉しかった」と笑顔で話していました。担当のデボラ・ペレスさんは「KLIの生徒が英語を話す経験をし、将来のために役立てほしい」と話していました。

● MARSHAL DINING HALL

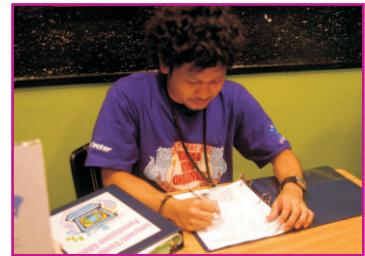


マーシャルという食堂でインターンシップをした久高早紀さんは、食事の配膳や食器の片付けに加え、お客様がいるときの掃除や窓拭き、英語を使った接客を行いました。英語での注文は正確に聞き取れている様子でしたが、早紀さんは「私の話す英語がうまく伝わらないときがあり、そのとき

は難しく感じます」と話していました。その食堂は軍人しか食事ができない場所で、アメリカンフードだけではなく日本食や野菜もありとてもおいしそうでした。担当の石川さんに早紀さんの印象を尋ねると、「よく仕事をする、いつも笑顔が素敵なお方」とのことでした。

YOUTH CENTER

最後にユースセンターでインターンシップをした比嘉定史さんを紹介します。定史さんの仕事は子供と一緒にビリヤードやテレビゲームをして遊んだり、子供の面倒を見たりすることでした。定史さんは「子供がわがままで言う事を聞かない時がとても困るけど、子供達が元気に話し



かけてくれることが嬉しかった」と話していました。ユースセンターにはたくさんの子供があり、いろいろな遊具やダンスルームなどのあるとても広い施設で子供たちも楽しそうでした。担当のテレサ・ウイッティエンさんは「定史君にとって、基地内の子供達と遊びながら英語を話すことができるというのはとてもよい経験になるでしょうね。」と話していました。

沖縄県傷痍軍人会、 史跡を見学

第18航空団広報局

OKINAWA
SHO-I
GUNJIN KAI



2009年7月23日、沖縄県傷痍（しょい）軍人会の79名の会員が、嘉手納基地内にある沖縄戦の「降伏調印の碑」と沖縄戦前に旧日本軍が建築した「航空機格納庫跡」を見学しました。同会は毎年活動事業の一環として、先の大戦の戦没者の御靈を慰め世界の恒久平和を祈願する目的で、「戦跡めぐり」を実施しているとのことで、今回初めて嘉手納基地への訪問を受け入れました。沖縄戦当時、軍人、軍属、そして協力者として日本軍に従軍し戦傷を負い、法律に基づく救済を目指し1953年に同会が設立されたとのことです。当初の会員数は約2800人でしたが、現在では約600名だということです。視察した同会の宮城繁会長は、「戦争があったからこそ、今の平和がある。その平和の大切さをさらに理解するためにも、基地内の史跡を今回訪れました」と語り、「基地内の史跡の存在は、皆ほとんど知りませんでしたが、終結の場所として調印式の跡地を見ることができたのは大変意義深い」と述べました。



（広報局写真部提供）



A T K A D E N A A I R B A S E

VISIT OF OKINAWA DISABLED VETERANS ASSOCIATION
VISIT OF OKINAWA DISABLED VETERANS ASSOCIATION